



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第 102 号

2012.7.23

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」
の名前をつけています。

も く じ

おしらせ

一千町原 夏の草刈りのご案内

活動報告

一夜のモリアオガエル観察会（豊平）

一龍頭山の野鳥観察会

一湿原の昆虫観察会

一霧ヶ谷湿原の植生調査（夏）

一霧ヶ谷湿原 夏のいきもの観察会

観察会案内

一カワシンジュガイ探検隊

一可愛川の水生生物観察会

お し ら せ

● 千町原 夏の草刈りのご案内

今年も千町原で、夏の草刈りを実施します。夏の八幡で、一緒に汗を流しませんか？自分たちで手入れをした草原を歩く楽しみは、また格別です。虫の声やさわやかな風を感じながら、みんなの力で、千町原の草原を維持しましょう。作業後に、涼しい山麓庵でみんなで昼食を食べませんか？お弁当を持参されるか、かりお茶屋の定食（¥800）をこちらで予約します。

保険手続きとお茶等の用意がありますので、必ず事前にお申し込みください。みなさまの参加をお待ちしております。

【日時】 2012年8月4日（土）8:00～12:00

【集合場所】 山麓庵

【参加費】 無料

※今回は、損保ジャパンのSaveJapanプロジェクトの支援により、参加費無料です。

【作業内容】 低木等の伐採と外来種（オオハンゴンソウ）の除去

【キッズ】 キッズプログラムを用意していますので、子どもさんを大歓迎します。

【申込み先】 千町原草刈りボランティア事務局
（高原の自然館 内）

eメール：kusakari@shizenkan.info

【必要事項】 1_氏名、2_住所、3_電話番号、

4_生年月日、5_草刈機持参の有無

（あれば、携帯電話の 6_電話番号、7_メールアドレス）必要な方は、8_かりお茶屋への定食の申込み

【申込み〆切】 7月27日（金）まで

観 察 会 報 告

●夜のモリアオガエル観察会（豊平）

開催日時：2012年6月8日（金） 19:00

講師：内藤順一

モリアオガエルの観察会にはぴったりな小雨の中、18名の参加者が集まりました。まず、原東生活改善センターで内藤先生による講義を聞きました。講義ではモリアオガエルの特徴、同時期に活動する他のカエルとのちがいや、ふ化から変態までの期間にどのような天敵に狙われるのかを学びました。その中で、抱接は1対1だけではなくメス1匹にオスが何匹も集まることや、天然記念物や絶滅危惧動物に指定や選定されているが、意外に広範囲に生息していることに驚きました。映像を用いた講義では、産卵中の映像だけでなく、産卵間近のモリアオガエルを狙うヘビといった映像もみせていただきました。座学会終了後は、観察場所であるため池に移動し、モリアオガエルを実際に見に行きました。近くの田んぼではシュレーゲルアオガエルや、アマガエルなど様々なカエルが合唱を奏でています。「ため池ではモリアオガエルのオスがメスを呼ぶ為に合唱をしているかもしれない」という内藤先生の言葉に期待をしながら歩きました。途中、柵や木の幹や枝にモリアオガエルのオスがおり、内藤先生が実物を教材に、特徴や、他のカエルとの見分け方を説明されました。産卵場所である池の周りには大量の卵かいがありました。中にはかなり高い位置に卵かいがあり、参加者の方達を驚かせていました。残念ながら今回の観察会ではメスの姿や、オスの合唱、産卵シーンをみることができませんでした。内藤先生の話では、「雨が降っていた午前中や昼に産卵がはじまって、今は休んでいるのではないか？」とのことでした。実際に産卵を見る事はできませんでしたが、一面に広がる卵かいかやモリアオガエルの雄を間近に見る事ができて、楽しい観察会となりました。

[はたもとやすひこ]



モリアオガエルのことを座学でしっかり事前学習する。



内藤先生がモリアオガエルの産卵について解説中。



雨具を着て、いざ観察場所のため池へ。



見たり、撮ったり、聞いたり、探したり。皆さん思い
思いにお楽しみ中。



産卵していないかな？モリアオガエルはいないかな？



木全体に広がるモリアオガエルの卵塊。まるで大きい
雨粒のよう。



静かに目の前にいた、モリアオガエルのオス。

【みなさんの印象に残った物】

「モリアオガエルの手」「モリアオガエルをさわ
われたこと」「モリアオガエルの卵が多く見ら
れた事(4)」「たくさん産んでいた卵にはビツ
クリですうちの近くの池にも産んでいますが、
数が多いのですごいです!!」「意外にかわい
かった。」「かえるが近い所におったからびつ
くりした」「モリアオガエルのオスの宿命」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「雨の日でも、うまく出会えない時があるの
だとわかりました。」「楽しかったです。また参
加してみたいです。両生類の生そくには、水と
陸がとなり合わせというのが大切とわかり勉強
になりました。」「オスの大合唱が聞けなかつた
のが残念」「内藤先生の説明が解りやすくモリ
アオガエルの様子が良く見られた事。産卵が見
られなかった所が残念です。(2)」「産卵は見
れなかったが多くの卵塊が見れて楽しかった」
「産卵は見られませんでした、楽しかったですよ！(2)」「普段はヘビが出る所なので入
った事がなかったんですが、今度日中に行きたい
です」「抱授が見られなかったのは残念だが次
に是非見たいという思いが強くなった」

観 察 会 報 告

●龍頭山の野鳥観察会

開催日時：2012年6月10日（日） 6:00

講師：上野吉雄

龍頭山の野鳥観察会も今回で6回目となりました。参加者13名で、龍頭山の下の駐車場から出発し、シジュウカラやヒヨドリ、カワラヒワ、ウグイスなどおなじみの鳥の姿や鳴き声を聞き、上野先生から一種類ずつ丁寧な解説をしていただきました。オオアカゲラが作ったであろう巣穴や、ヒガラの鳴き声が「シーチキン、シーチキン」と聞こえること、コサメビタキの巣は樹上の横枝に、クモの糸にコケを貼付けて作ることなど、その場にいるからこそ聞いたり見たりできたことがありました。途中アカショウビンの鳴き声も聞こえてきて、参加者たちは耳をすませ、心ゆくまで楽しみました。また、いつも聞き慣れているイカルの鳴き方が、龍頭山では微妙にちがっているように聞こえ興味深かったです。姿を見るだけが目的ではなく、どんな環境にどんな鳥がおりその生態を知ることが大切だということも上野先生のお話から学びました。8時半頃まで観察した結果、この日は全部で23種類の鳥を確認することができました。朝の数時間がとても貴重な時間となり、早起きをしてよかったなあと感じました。

[ころのやよい]

※ カワラヒワとコサメビタキの写真を吉岡透さんよりご提供いただきました。ありがとうございました。



木陰はまだ薄暗い龍頭山。耳を澄ませて進む参加者。



鳴き声が聞こえてきたので、一斉に上を見上げる。



朝6時半の集合。さわやかな空気！



八幡より一足早く花を咲かせていたコアジサイ。



フィールドスコープで鳥の姿をキャッチ！顔の表情までわかる近さで観察。



群れになっていたカワラヒワ。



オオアカゲラが作ったのかな？大きな巣穴があった。



コサメビタキの姿も！



鳥の観察には粘り強さが必要。じっと待つ。

【みなさんの印象に残った物】

「とりを見たこと」「サンコウチョウの声がかきこえたこと (5)」「とりたちの巣 (3)」

【参加したみなさんの感想 (抜粋)】

「とりを見たのが楽しかった (2)」「楽しかったです。」「さえずり等は聞こえても葉がしげっているためなかなか姿は見る事ができなかったけど、鳥達の姿が見れて楽しかった」「久しぶりに、じっくり鳥を見れてよかった」「来て良かった！です」「早起きの甲斐があった。」「鳥の鳴き声に包まれてとても幸せな気分です。この時をいつまでもと心から思います」

観 察 会 報 告

●湿原の昆虫観察会

開催日時：2012年6月23日(土) 10:00

講師：岩見潤治・松田賢

梅雨の真ん中で、雨も心配されたましたが、幸い雨も止み、虫たちも動き出しそうな天気の中、昆虫観察会が始まりました。参加者は5名でした。観察場所は主に霧ヶ谷としていましたが、自然館から歩き出すとすぐ動けなくなってしまいました。満開のウツギに何やらたくさんのハチが集まっています。ウツギヒメハナバチです。このハチはウツギの花粉を集め、土中の巣に置いて産卵し、幼虫の餌にするそうで、たくさんの親蜂が花に出入りしていました。このハチは巣に戻る能力が高く、3km離れた巣にもちゃんと戻るといことです。水口谷入口から霧ヶ谷湿原の南の入口に行くまでに、オオヘリカメムシ、ツマキヘリカメムシ、ヒメシジミ、ムラサキシジミ、イシガケチョウ、クロヒカゲ、アサヒナカワトンボなどがみられました。特にノイバラとヨモギが群生している明るい場所にヒメシジミが多数みられました。

霧ヶ谷の木道に入ると、チョウやトンボの仲間が目立ちます。カラスアゲハ、ヒメシジミ、ヒメクロサナエ、ミヤマカワトンボ、アサヒナカワトンボ、ヒロシマサナエ、フタスジサナエなどがみられました。ヒロシマサナエは、一時期国内で八幡でしか確認されていなかった八幡湿原の代表的なトンボです。これが10個体以上みられ、湿原再生が順調に進んでいることを感じました。ヒメシジミもノイバラで吸蜜しているなどあちこちでみられました。松田先生が捕まえたアサヒナカワトンボの羽に、何かダニのようなものが付いています。寄生しているトンボダニガの仲間です。ダニカとありますがハエの仲間だそうです。水たまりのまわりにはモリアオガエルの卵塊もありました。

さらにコンクリート橋付近では一瞬カラフトゴマフトビケラも確認され、参加者皆が興奮していました。霧ヶ谷湿原からの帰り道、車道のへりでヘビを見つけました。よく見ると何匹もいます。種類もシマヘビ、アオダイショウ、ヤマカガシ、マムシと役者がそろっています。どうやらヘビのアパートのようです。道路の端が丈の低い草むらで、道路脇の石垣にはコンク

リートの割れ目があります。この環境がヘビにとってちょうどいいようです。霧ヶ谷湿原でヒメシジミやヒロシマサナエがたくさんみられたことや、カラフトゴマフトビケラが確認されたことは、湿原再生が進んでいることの証であり、望ましい方向であると考えられます。これから霧ヶ谷湿原の移り変わりを観察していきたいと思います。[わだしゅうじ]



オオヘリカメムシは、青リンゴのようないい香り。



アサヒナカワトンボの羽には、トンボダニガの仲間が寄生していた。



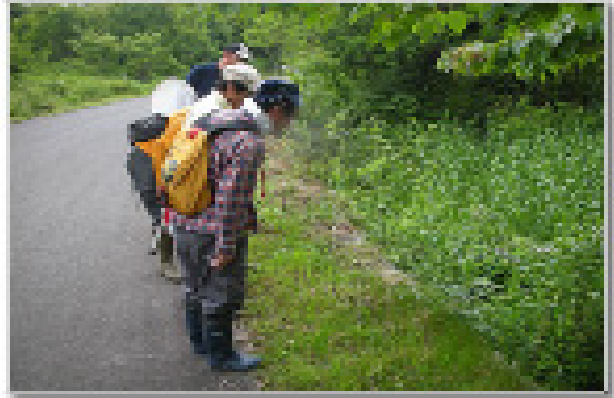
よい香りがするスイカズラ.



羽を広げて休むヒメシジミ.



ヒロシマサナエがいた！



ヘビのアパートを覗き込む参加者.



広々とした木道から観察する.

【みなさんの印象に残った物】

「カワトンボでアサヒナカワトンボとニホンカワトンボの2種あることに驚いた.」「ヘビが石垣にたくさんいたこと」「ヒロシマサナエ, カラフトゴマフトビゲラ, トンボダニガ, ヘビのねじろ (アオダイショウ, シマヘビ, マムシ, ヤマカガシ)」

【参加したみなさんの感想 (抜粋)】

「参加者が少数で, 話や昆虫の名前等を良く聞くことが出来た」「沢山の種類のチョウやトンボを見ることができてよかったです」「参加者が少なく残念」

観 察 会 報 告

●霧ヶ谷湿原の植生調査（夏）

開催日時：2012年6月24日（日） 9:30

講師：大竹邦暁・佐久間智子・白川勝信・

和田秀次

夏の霧ヶ谷湿原で植物の調査をしました。この調査は、霧ヶ谷で実施された「八幡湿原自然再生事業」の効果を、植生の回復具合から確認するためのものです。西中国山地自然史研究会では、工事が完了した2009年以来、毎年6月と9月に同じ場所で調査を続けています。工事終了から4年目の今回は、植生調査が初めてというお二人を含む、7人で実施しました。現地に行く前に、湿原再生の意味やねらい、その方法などの説明を、高原の自然館で和田先生から聞きました。霧ヶ谷湿原は、かつては地域の人の草刈り場でしたが、戦時中に陸軍の演習地として買い上げられて以来、地元の人による利用はありませんでした。終戦後には、開拓団として入植した方もありましたが、長くは続きませんでした。昭和の中頃には、国が食料自給率を高めるために行った「大規模草地改良事業」の国内第1号地として開発が進められました。霧ヶ谷湿原の環境が大きく変わったのはこの時です。土地を乾燥化させるための排水路が掘られ、本線の水路はコンクリートの三面張りになったため、湿原は失われました。この牧場も、1980年頃には閉鎖になりましたが、排水路は残ったため、湿原はもとには戻りません。再生事業は、人間活動によって失われた自然のしくみを元通りに戻すとirikumiです。このような背景を知った上で、現地で調査を行いました。予め設置されている12プロットで、植物の種類や高さを丹念に調べていきます。今回は調査の専門家が3人も参加されているので、初めて参加された方も、花が付いていない株でも見分けることができるようになったようでした。植生調査は地道な調査ですが、続けることで見えてくるものがあります。今年は霧ヶ谷湿原の工事を点検する年です。これを機会に、今までのデータもまとめていきたいと思います。

[しらかわかつのぶ]



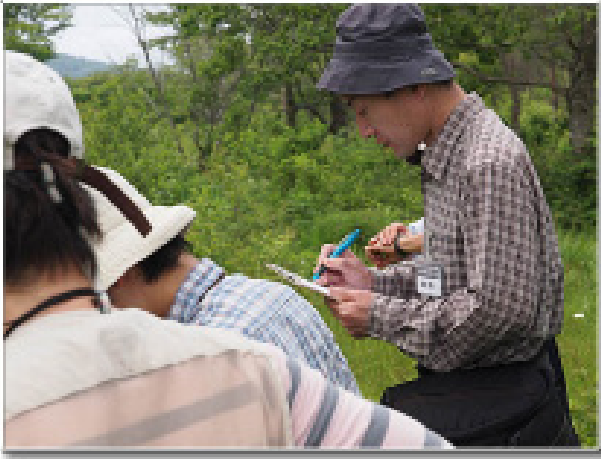
調査地点は木道に沿っているため、木道に座りながら記録ができる。



調査区域のすべての種を記し、高さを測る。



プロットを設置している様子。



4人で1m×1mの調査。1人は記録係。



ミゾソバが繁茂した中に、大きなアブラガヤの株が生えている調査区。



ハンノキ林の下は、マアザミ、ヌマガヤ、オニスゲ、ヒメシロネ、クサレダマなど、湿原生の種が多く見られた。



湿原の植物と、ススキや外来種と一緒に生えているプロット。場所によって植生はずいぶん違う。



初心者でもだんだんと調査に慣れてくる。

【みなさんの印象に残った物】

「カヤの種類が多さ」「ハンノキがたくさんあったこと！」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「初めてのことで手間取りました。」「とても勉強になりました。またやらせてもらいたいと思います。」

観 察 会 報 告

●霧ヶ谷湿原 夏のいきもの観察会

開催日時：2012年7月10日(日) 9:30

講師：大竹邦暁・松田賢・和田秀次

毎回いろいろな発見がある霧ヶ谷湿原のいきもの観察会です。今回は植物担当の和田先生・大竹先生，昆虫担当の松田先生が講師陣です。加えて参加者に，鳥の専門家である上野先生・魚類両生類の専門家内藤先生であるもそろい，とても心強いメンバーで出発しました。

湿原に着くまでもさまざまないきものに出会いました。日本の中で繁殖地はこの八幡高原だけ！というミヤマホオジロの姿と鳴き声をキャッチ！比較的近くの木のとっぺんで堂々とした鳴き声を披露してくれ，みなさんカメラを向けたり，双眼鏡で覗き込んでいました。

さらに進み，このあたりはヘビが多いところ・・・という場所があります。参加者みんなで目を凝らして草むらをみると，じっとしているまだら模様のニホンマムシが見つかりました。危険な動物に対してただ闇雲に怖がるだけではなく，どんなところにおり，どんな姿をしているかということを知っておく必要があると思いました。

霧ヶ谷湿原に着いてからも観察が続きます。この日はトンボもたくさん飛んでおり，アサヒナカワトンボ・グンバイトンボ・シオヤトンボ・ヒロシマサナエなど8種類確認され，中でもヒロシマサナエの見分け方を松田先生にじっくり解説していただきました。アブとハチの違いは「羽の枚数の違い」に加え，「口の構造の違い」も教えていただき，新たな発見がありました。植物ではクサレダマ，ノハナショウブ，ハンカイソウ，など湿地に生育する植物が花を咲かせていました。ミズチドリや サワヒヨドリ，オカトラノオはつぼみだったり，まだ咲き始めであったので，これから咲く姿が楽しみだなあと期待を持ちました。

霧ヶ谷湿原では和田先生より自然再生事業の概要や現状を聞きました。途中で立てられている解説板には霧ヶ谷湿原で見ることのできるいきものの写真が掲載されており，「今日はこれをみたね～」「こんな花も咲くんだね～」と参加者同士で会話が盛り上がっていました。ひと回りして，とても午前中だけでは時間が足りま

せんでしたが，お昼もすぎたので駆け足で帰り道を急ぎました。

帰り際，ふわりと舞っていたアサギマダラの姿を見れたのは幸運でした。

最後に印象に残ったものを一人ずつ発表して解散となりました。私自身は，ヒロシマサナエの見分けるポイントが“胸縫線を見る”と教わったこと，淡い黄色の花がかわいらしかったクサレダマが大変印象に残りました。秋のいきもの観察会も楽しみです！[このやよい]

※ミヤマホオジロとラクダムシの写真を，佐々木隆夫さんにご提供いただきました。ありがとうございました。



今回新たに講師をしてくださる松田先生。昆虫類だけではなく，たくさんのご存知。



出発してすぐミヤマホオジロをキャッチ！この時期ミヤマホオジロの姿を見られるのは日本の中でも八幡だけだとか。



内藤先生が見つけてくださったカスミサンショウウオの幼生。小さくてかわいい。



高原の自然館の前で最後のまとめ。充実した観察会でした。



これまた珍しいラクダムシ。



ハンカイソウにとまるクロアゲハ。色のコントラストが美しい。

【みなさんの印象に残った物】

「ヒヨドリバナとサワヒヨドリの違いがわかった」「ミズイロオナガシジミを見れた、きれいだった」「マムシを見たことです」「ミズイロオナガシジミ、アサヒナトンボとミヤマカワトンボ」「オニヤンマを見たこと、その他いろいろなトンボが見れたこと。」「ミヤマホオジロ」「初夏の空気の中に息づく植物、鳥、昆虫の息」「ヒロシマサナエ、ラクダムシ」「ラクダムシ、ミヤマホオジロ」「ウラギンヒョウモン」「ラクダムシ」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「一般の人の参加をもっと多くしたいですね」「植物、昆虫、両生類を幅広く教わった」「色々な植物やこん虫が観察できてよかったです。」「丁寧いなせつめいありがとうございます」「鳥も植物も色々見れて充実してました」「講師陣が豪華で楽しかった」「芸北へ来るといつも自然を借りて生きているのだなあと感じます。湿原の保護活動をしている皆さんの努力に拍手を送ります」「皆さんの話がとてもマニアックで、ためになりました」「たくさんの昆虫が見れてよかった」「数年ぶりに来て再生事業がすすんでいるようでたのしく思えた」「参加者の方もいろいろくわしくて楽しかったです」

観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳
作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

● カワシンジュガイ探検隊！

開催日時：2012年7月29日（日）9:30
集合場所：雲月ふれあいセンター
講師：内藤順一
準備：川に入れる服装（水着が良い・川の中で歩ける靴）、水中メガネ、箱メガネ、網、シュノーケル、ゴーグル
定員数：30名
参加費：一般=300円
賛助会員=100円
正会員・中学生以下=無料

滝山川に入り、川に棲むいきものを観察します。アブラボテが確認されていることからカワシンジュガイが生息している可能性があります。新産地発見のチャンスです。タカハヤ・カワムツ・アカザなど、魚類の観察も楽しそう！水の中で活動できる服装でお越し下さい。靴のまま川へ入ります。ゴーグルもあればご用意ください。安全のため、子どもさんには必ず保護者が付き添い下さい。



● 可愛川の水生物観察会

開催日時：2012年8月5日（日）13:00
集合場所：千代田中央公民館
講師：内藤順一
準備：川に入れる服装（水着が良い・川の中で歩ける靴）、水中メガネ、箱メガネ、網、シュノーケル、ゴーグル
定員数：30名
参加費：一般=300円
賛助会員=100円
正会員・中学生以下=無料

夏休みのお楽しみ、可愛川の水生物の観察会です。川に入り、国の特別天然記念物であるオオサンショウウオを中心にいきもの姿を見つけたり、名前や生態の解説を聞きましょう。普段はなかなか見ることのできないオオサンショウウオを間近で観察できるチャンスです。川に入ることでできる服装でお越し下さい。網や箱メガネ（又はゴーグル）もあると便利です。



八幡高原にも夏がやってきました。ハンカイソウの鮮やかな黄色を見ると元気が出ます。ノハナショウブの姿を見ると、すと背筋がのびます。咲き始めのオカトラノオの花はかわいらしいですね。日中は暑い日差しが容赦ないですが、夕暮れ時になると涼しい風が吹き、熱帯夜の心配はありません。「夏は八幡のもんじゃね!」という言葉がぴったりです。短い夏ですが、しっかり楽しみたいと思います。（この）

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先（ご意見・ご感想もお待ちしております）

高原の自然館（こうげんのしぜんかん）

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 119-1

tel. & fax : 0826-36-2008

<http://shizenkan.info/>

staff@shizenkan.info